



てとて



発行:青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課 (Email:bunkagakushu@city.aomori.aomori.jp)

〒030-0801 青森市新町1丁目3-7 TEL:017-718-1384 FAX:017-718-1372



昨年12月はどっと雪が降りましたが、後は例年に比べ雪が少なくほっとしております。各学校の地域学校協働活動推進員（以下推進員）、コミュニティ・スクールディレクター（以下CSD）の皆様においては、これまでの事業についての反省や新年度の事業計画などを、着々と進められていることと存じます。

また、今年度6月から始まった小中学校61校の学校訪問は、12月をもってすべて終了となりました。校長先生、教頭先生、推進員、CSDの皆様、お忙しい中ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

今回は、学校訪問の際のヒアリングの中から、新年度を迎えるにあたって参考となる3月・4月の取り組みについてご紹介します。

## 次年度に向けて、できることを



### ☆活動の見える化

#### ○年度の活動を一覧に

- ・一年間の活動を一覧表にしている学校が多々ありました。新年度は学級担任など先生方の布陣が替わり、学校によっては、校長先生や教頭先生が替わったりします。その際にボランティア活動の一覧表を活用し、教育計画に生かしていました。もちろん、推進員の方が替わった際には、引継ぎ資料として役立てていたようです。
- ・次年度から全学校で一覧表を作成するよう事務連絡会議の際にお願いしました。まだ一覧表の作成をしていない学校は、この機会を活用して作成をお願いします。

### ☆活動の共有、確認、協力依頼

#### ○学校との共有、確認

- ・4月早々に学校管理職、先生方、推進員の3者（中には図書ボランティアさんを加えて4者）で、顔合わせも兼ねて1年間の活動について打ち合わせをしている学校がありました。学校や先生方のニーズを把握する上で、ぜひ意図的、計画的に学校と話し合う機会を設けたいものです。

#### ○PTAとの共有、確認

- ・以前本事業は、PTA活動と線引きをした活動とか、PTA活動の隙間を埋める活動と言われたこともありますが、最近はPTAとの融合という形で進んでいる学校が増えてきました。どちらもボランティア活動であり、子どものためにという思いは一緒です。PTA役員の方と次年度の活動を確認し、話し合い、お互い助け合ったり補完し合ったりする体制を作ってほしいと思います。

#### ○地元の外部団体、ボランティアの方との共有、協力依頼

- ・今年度、多くの地元の外部団体、ボランティアの方の協力があり、本事業が行われたことに感謝いたします。各学校でも、今一度謝意を表し、次年度への協力依頼をお願いします。
- ・4月早々からの活動や新たな活動を予定している場合には、今年度中に事前の打ち合わせや準備が必要ですので宜しくをお願いします。（新1年生の登下校指導、給食指導など）

## コミュニティ・スクール事例発表会 (R6.1.31)

青森市教育研修センター



CS の認知を高めるためには、地域への情報発信が重要です。そのツールの一つが「おたより」です。今年的事例発表会は、「CS 通信」の作成について行いました。

### 1 事例発表〔東中学校区 柴田知弘 CSD〕

- ・この1月で39号となる。各学校、CS委員へ月初めに発行している。
- ・各校の学校だよりや会長等から寄稿された記事を内容としている。新聞等から得た東部地区の情報を載せることもある。裏面には、各学校の行事を東中学校区CSカレンダーとして載せている。

### 1 事例発表〔戸山中学校区 小山寿美子 CSD〕

- ・学校支援地域本部事業の頃からのボランティア通信をベースに、CS通信を加えて、学校の保護者・町会(回覧板)・市民センターに配布している。
- ・今年度から取り組んでいる「魅力ある戸山プロジェクト」の意義や内容を周知したい。

### 2 熟議(情報発信「CS通信」の発行を目指して)【各中学校区グループ熟議後の感想から1部抜粋】

- ・熟議にもだいぶ慣れてきたので、スムーズに意見が出てきていた。(会長)
- ・目標に一步近づけた。課題として、CSD一人に頼ることなく、自主的に楽しくやっていきたい。(会長)
- ・テーマも明確で、意見も活発に出て時間が足りなくなるほどであった。(校長)
- ・CSD、推進員とゆっくり話すことができよかった。来年度に向けてアイデアを共有することができた。(校長)
- ・色々と勉強になることが多かった。これから今日のヒントを生かして全体で盛り上げていきたい。(CSD)
- ・お陰様で参加者とのコミュニケーションがとれた。(CSD)
- ・改めて地域を見つめ直し、地域への発信の仕方を発見することができた。(推進員)
- ・自分達の地域の足りないところやこれから力を入れたいところが分かった。(推進員)

## 第3回地域学校協働活動に係る事務連絡会議 (R6.2.6)



青森市中央市民センター

地域学校協働活動を促進するには、活動記録を残し次に活かしていくことが大切です。事務局としては、その一つとして年間活動計画の活用を進めたいと考え、今回の会議のテーマとしました。



### 1 事務連絡

- 令和6年度の本事業について  
(制度、提出書類の変更点等)

### 2 事例発表〔浜田小学校 築館雅樹教頭〕

- 「みんなが笑顔に 浜田小学校笑顔ボランティア」
  - ・笑顔をキーワードに、地域や保護者の方が「学習・見守り・クラブ」のボランティア活動を行い、子ども達にいかに関わっているか、という心温まる発表でした。

### 3 ワークショップ(年間活動計画作成)

- 新様式に従って、グループで通年・月別の疑似活動計画を作成しました。

### 【アンケートの感想から一部抜粋】

- ・先の見通しのためには、1、2月が大切だと思いました。
- ・年々保護者の方のボランティアさんが減ってきているような感じがする。PTAのOBや地域の方の力とPTAと連携が課題である。
- ・一緒に活動する人、引き継ぐ人を見つけるのが大変です。
- ・学校のニーズを出してもらえると助かる。
- ・ゆるくいろんな方とつながれてありがたい。

**編集後記**・・・2024年1月元日、能登半島で大きな地震があり、2011年の東日本大震災の記憶がよみがえりました。悲惨な報道や避難所での不自由な生活に心が痛みました。その中で、珠洲市正院小の避難所の子ども達が、「私たちもできることを頑張りたい。」と壁新聞を作ったという記事がありました。被災された人たちからは「描かれたイラストにほっこりした。」「元気をもらった。」などというコメントが報道されていました。学校と地域が互いに手と手を取り合って子ども達を育ててきたことの表れがこのような姿になったものと感慨深いものがあります。今年度最後の「てとて」第48号を発行するにあたり、次年度皆様の取組がより充実されることを期待します。